

加工・業務用向け野菜の取組事例

1. 経営体の概要

- 名称 農業生産法人イシハラフーズ株式会社
- 所在地 宮崎県都城市下川東2-1-1
- 従業員数 役員2名、従業員125名(社員83名、パート18名、技能実習生24名)
うち農業従事者45名(社員21名、技能実習生24名)
- 経営面積 約270ha
- 契約栽培 約17ha(1戸)
- 主な栽培作物 ほうれんそう、えだまめ、さといも、ごぼう、こまつな、にんじん、だいこん、ブロッコリー
- 販売先 生協(85%以上)、学校給食(3%未満)、量販店及び生協関連

3. 今後の目標と課題への取組

<課題及び対応>

- 農地について、30a以下の畑が全体の5割を占め場所も分散しており、作業効率が悪いことが課題である。
今後は、畑の耕地面積は現状を維持しつつ集約・集積を行い、機械の能力を発揮するため一筆当たりの面積を50a以上に拡大したい。

<今後の目標>

- スマート農業を維持しつつ、更なる作業機械の効率化・改良に取り組んでいき、野菜の安定供給(安心・安全)を目指す。

<お問い合わせ先>

農業生産法人イシハラフーズ株式会社
(0986-25-2121)

2. 取組の経緯と特徴

No: 17

<取組の経緯>

- 同社は、1976年に青果業として起業後は、チルド部門を経て、1983年から現在に至るまで冷凍野菜の製造及び販売を行っている。
同社は、当初、契約生産者のみで冷凍野菜の原料を確保していた。しかし、生産者の高齢化により契約生産者のみでは安定的な原料の確保は難しいと考え、2003年からは、農業生産法人を設立し自社直営農場から原料を確保する取組みを始めた。現在は、原料のほぼ全量を自社直営農場で生産している。

<取組の特徴>

- 機械化・効率化
 - ・機械化: にんじん、さといもなどの収穫機をメーカーと共同で開発し、農作業の省力化を図り、生産量の増大を実現している。
 - ・効率化: 同社は、2007年から自社開発の「農場管理システム」により作業・生育記録を一元管理している。従業員が畑の看板に記載されたQRコードをスマートフォンで読み取り、作業記録、生育状況及び散布農薬量等を写真やデータとして登録・蓄積することで、過去のデータを参考にしながら次期作へ活用できる仕組みを構築している。また、勤怠等もこのシステムで一括管理しており、従業員は工場及び畑と自宅間の直行直帰が可能となるなど、作業の効率化を図っている。
- 安心・安全
 - ・残留農薬検査センターの設置・運営やほ場管理トレサビリティシステムによる生育記録の見える化を実現し、消費者へ安心・安全を提供している。



イシハラフーズ㈱



QRコード読み取りによる栽培管理